



みくびだより

発行 御首神社社務所

御挨拶

拝啓 当神社の御神域も深い緑に包まれて新しい息吹が感じられるようになりましたが、皆様方に於かれましては愈々ご清栄の事とお慶び申し上げます。

天皇皇后両陛下に於かせられましたは、本年戦後七十年と言う節目にあたり、陛下の強い思召しを以てパラオ共和国に幸啓遊ばされました。この度の行幸啓は、日本から三千キロ余り離れた熱帯の島国を一泊二日で往復する行程で、慰霊に加えて国際親善という側面もあり、両陛下は限られた時間の中で多くの行事に臨む大変厳しい御公務でありました。パラオ共和国は、第一次世界大戦後に日本の委任統治領となり、多くの日本人が移住し交流を深めてきましたが、第二次世界大戦時には激戦地と化し、現地人を含め多くの犠牲者が出ました。天皇陛下はその歴史に触れられ、犠牲となられた方々への追悼の言葉を述べ、ご遺族の苦難を偲ばれました。また、戦後の遺骨収集や慰霊碑・墓地の管理などに心からの感謝の大御心を表されました。私共は、この大御心に少しでも報い奉ることを常に念頭に置かねばなりません。

さて、四月二十五日ネパールでマグニチュード七・八の大地震が発生しました。犠牲者は周辺国を含め八千八百人余にも及び、東日本大震災を思い浮かべずにはいられません。犠牲となられました方々に謹んで哀悼の意を表しますと共に、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

神宮では今年三月に外宮の別宮であります風宮の遷宮が無事斎行され、第六十二回神宮式年遷宮が諸事完遂となりました。私事ではありますが、先月十二別宮の伊雑宮にご参拝させて頂き、遷宮後半年が経過しておりますが、新緑の中美しい白木の香しさ漂う中で清々しく参拝させて頂きました。

さて、先月恒例の御首神社崇敬会伊勢神宮参拝研修旅行を企画致しましたが、参加人数の減少等による運行地調整のためバス一台での催行となりました。その節ご理解ご協力頂きました会員の皆様方には厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、皆様方の御多幸と御健勝を祈念いたしまして、御挨拶とさせて頂きます。

宮司 三浦 篤

祭事報告(十二月、六月)

年越大祓

十二月三十日齋行

夏越大祓とは異なり、殿内におきまして宮司以下祭員にて大祓詞を奏上致しました。その後、拝殿前に移動し、皆様の罪と穢れが託されました人形を忌み火を以てお焚き上げいたしました。

元旦祭

一月一日齋行

一年で一番初めの祭典です。世界の恒久平和と国の隆昌を願い神社総代役員全員参列のもと恙なく齋行致しました。

境内は、午前零時に合わせ初詣にお越しの氏子崇敬者の行列が鳥居外まで連なっており、拝殿前では、次々と鈴を鳴らし静かに手を合わせておみえでした。



宮司 祝詞奏上

左義長

一月十五日齋行



忌み火点火

本年の左義長は、未明から続く大雨で終日生憎の天気となりました。その為、祭典が殿内にて執り行われた後に、宮司と祭員が傘を捧持し、境内に設けられました火炉まで参進の上、崇敬者が見守る前で忌み火が移されました。

火炉の中には、昨年一年間ご守護頂きました御神符や御守・注連縄(しめなわ)や、正月注連飾りの類が納められており、感謝の祈りと共にお焚き上げいたしました。例年午前中は、お焚き上げしておりませんが、本年は大雨により忌み火が消失しましたので、やむなく早々に納めさせて頂きました。

浄火祭

二月三日齋行

ご祈祷をお受けになられた方々が、ご神前に捧げられました金幣串やご自宅の神棚等に奉られました紅白串を始め皆様が祈願奉納されました絵馬や帽子を諸願成就を願ってお焚き上げ致しました。

当日は、氏子区域から選出されました厄年にあたる四名が厄男となり、祈願絵馬や金幣串を火炉の四隅より「氏名 心願成就」を連呼しながら次々と忌み火の中へと焼べられました。

神事終了後にはご参列の皆様がご自宅で不要になったお帽子を火炉の中へ投げ入れ、感謝の祈りを捧げてみえました。



炊き上げの様子

祈年祭

二月十一日齋行

「としごひのまつり」とも呼ばれ、三大祭の内の一つで重要なお祭りであります。今年一年の五穀(米・麦・粟・豆・黍)の豊穰を祈願する祭典で、氏子総代が参列のもと厳肅に齋行いたしました。

鍬山神社(境内社) 例祭

三月十七日齋行



鍬山神社前

伊勢神宮の外宮(豊受大神)をお祀りし、社殿は本殿北東にご鎮座されます。

当日は天候の都合により、開始時間を少し早めての齋行となりました。

例大祭

四月二日齋行

朝一番で、子供神輿の発輿祭が拝殿前で執り行われ、「ワツシヨイ・ワツシヨイ」と元気一杯の子供神輿が町内を練り歩きました。午後からは、境内の特設舞台上で演芸が開始され賑やかになってまいりました。例祭開始間際には氏子地域の子ども達による「打ち囃



子供神輿出発

子」が奉納され、太鼓・笛・拍子木の三つの音色は独特の楽を奏で参拝者も足をお止めになり聴き入ってみえました。楽が終わると大きな拍手が境内に響き渡りました。午後三時には例大祭が斎行され舞楽の奉納もあって、華やかながらも厳肅に齋行されました。



打ち囃子奉納



舞楽 蘭陵王

南宮神社（相殿社）例祭

五月四日齋行

本殿の相殿社（東）に鎮まり座す、南宮神社（御祭神は南宮大社より御分霊を戴いた金山彦大神）の例祭が恙無く齋行されました。お田植祭

六月上旬齋行



お田植えの様子

境内に作られた神饌田前にて齋行されました。神事の後は宮司の手により早苗が神饌田に植えられました。

この神事に先立ち、五月初旬から、神職により老朽化した神饌田の修復作業を行いました。

農休祭

六月中旬齋行

当社をはじめ氏子地域のお田植えが無事に済んだ事への感謝と、稲の生育を祈願し齋行されました。

撮影報告

二月三日（浄火祭当日）午後、中京テレビの撮影がありました。同テレビの「4U」と言う番組の中で「さすらいの朱印ロード」と言う御朱印を集める番組企画があるのですが、今回は「頭の良くなる朱印旅」なる特集で当社が選ばれました。

お笑い芸人の井戸田さんと、スギちゃんさんが来社されました。撮影中のお二人は、神社の由来を真剣にお聞きになり、丁寧にご参拝される姿と、時には面白可笑しくやり取りする場面があったりと、プロのメリハリが冴え渡っていました。

カメラが回っていない時は、ご参拝の皆様にも気さくに話しかけて下さるなど、とても好印象の芸能人お二方でした。



右から 三浦宮司 井戸田さん スギちゃんさん

神社について

神社の周りは参入口を除いて囲われている事が多いと思います。この囲いは「玉垣（たまがき）」と呼ばれます。玉垣は、石製や木製であったりコクリート製もございいますが、最も古い形態としては樹木で囲む「柴垣」であると言われております。

玉垣で神社及び神域を囲うことにより、その内側がより神聖な場所である事を示しています。また垣根が二重・三重とめぐらされている場合は、外側を荒垣（あらがき）又は、外垣（そとがき）と称



『玉垣と鳥居』

し、一番内側の垣根を「瑞垣（みずがき）」と呼んでおります。

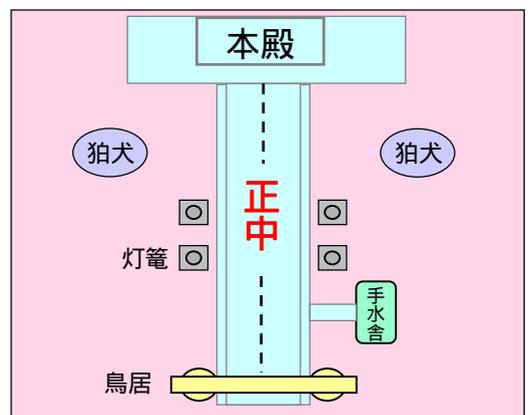
そして、玉垣の切れているところには、「鳥居（とりい）」が聳え立っている神社が多いと存じます。鳥居の形態としては、二本の柱の上に笠木を載せ、その下に貫を入れて柱を連結したものが基本となります。御祭神などにより様々な様式が有ります。当社の鳥居は一般的に多く見られる「明神鳥（みょうじんとりい）」と言われる様式になります。鳥居の語源については諸説ございますが、天照大御神が天の岩戸にお隠れになった際に八百万の神様たちが一羽の鶏を鳴かせます。その鶏が止まった木を「鳥が居る」・「鳥が居た」という説や「通り入る」の意味であるなど、いろいろな見解がございます。

鳥居も玉垣同様、神々の坐します神域と我々が暮らす世界との境目に存在しております。神社に足を進め入れられます時には是非ともこの事を念頭におかれまして厳粛なお心でご参拝下さい。

神職への質問Q&A

問 休日を利用して、神社を何社か参拝してきました。その際本殿に繋がる参道の真ん中を頭を下げながら横切られる方を見ました。また、今度は自転車に乗った方が神社前を通過される時に頭を下げておられました。この行動は何か決まり事があってのことでしょうか？ 今後の参拝の参考にしたいので是非教えてください。

答 本殿に続く参道の真ん中を「正中（せいちゆう）」と称しております。正中は、神様の通り道と言われており、神職は殿内での祭典時よりもより境内においても、この正中を横切るときは頭を少しさげて進みます（例外もあり）。これは、神様がお通りになる尊い道恐れ多くもこれから横切らせて戴きますと言う気持ちの現れによるものでございます。また、自転車乗車中の方の所作につきましても恐らく、同様の気持ちの現れであると思いますが、大変危険な行為でございますので、乗車中の場合は、特に「頭を下げる」必要はないかと思えます。



もしも、仮に「頭を下げる」必要性をお感じのようでしたらご面倒でも自転車から降車して行われてはどうかと思います。その方が礼儀正しくより丁寧になると考えます。

總め 今回のお尋ねは、一年に一度は社頭でも耳にする質問でございます。中には、自動車の運転時にも一礼した方が良くないかと真剣に尋ねられる方もございました。

第三者からみて、「危ない！ケガするよ！」と思われる行いはお避けになりまして、身体も心も穏やかに尊いお気持ちでお参り下さいますようご案内方々お願い申し上げます。

祭事案内(七月〜十月)

西宮神社(相殿社) 例祭

七月十七日

兵庫県の西宮神社より御分霊を戴き、本殿の脇殿に鎮まり坐す蛭子命の例祭になります。

末廣稻荷神社例祭

八月九日

境内の北東にご鎮座の末廣稻荷神社の例祭です。この神社は戦後まもない昭和二十六年に京都の伏見稻荷神社より御分霊を戴いてお祀り申し上げております。

毎年例祭に合わせて氏子地域の子ども達が行灯に貼る絵を心を込めて描き奉納頂きます。

行灯は末廣稻荷神社参道に掲げられ、例祭を華やかに彩ります。



末廣稻荷神社参道

夏越大祓

八月九日

夏越大祓は、半年の内に知らず知らず受け犯してしまふ罪と穢(けがれ)れを人形(ひとがた)に託してお焚き上げし、年の瀬まで無事健康に暮らせますよう願う半年に一度の神事です。



茅の輪くぐり

お祓いの神事の後に「茅の輪くぐり神事」が行われますので、皆様も是非ご参列下さい。

人形(ひとがた)と申込封筒は社頭にもご用意いたしておりますので、ご参拝の際にお申し込み下さい。お申し込みにあたり、ご不明の点は社務所にてお尋ね下さい。

長寿祈願祭

九月十五日

当社の鎮座します宇留生地区のご長寿の皆様をお招きし、健康であることへの感謝と更なるご健康とご長寿を祈願いたします。

神明神社(境内社) 例祭

十月十七日

天照大御神をお祀りする本殿の北西に鎮座する境内社の例祭。



神明神社前



左：申込封筒・右：人形

崇敬会入会のご案内

本会は、「古来首より上の諸病を憂うる者此の社に願えば靈験あらたか」と伝わりし御首神社の御神徳に感謝し、ご家族の諸病平癒・無病息災・家内安全生業繁栄並びに子孫繁栄を願う崇敬者の会として設立されました。

入会を望まれます方は、社務所までご一報下さい。早々に案内資料をご用意させて頂き戴きます。

会員の特典 (抜粋)

- ・入会報告祭の実施
- ・誕生特別祈禱の実施
- ・及び祈禱神符の授与
- ・主要祭典のご案内
- ・昇殿参拝

会員の種類と年会費

個人	三千元
家族	五千元
特別	一万円
法人	二万円
名誉	三万円

お問い合わせ先
神社社務所まで
〇五八四 九一 三七〇〇

祭事案内(十一月)

七五三祈禱

十一月中

三歳・五歳・七歳と言う成長の節目に神社へ参拝し、これまでの無事成長を感謝し、これから先の健やかな成長を願うものです。

その昔、男女共に髪を剃る習慣があつたと言われております。三歳から髪を伸ばし始めるとし、三歳の七五三を「髪置きの儀」と呼びます。



また、男児が五歳になると袴を履き始めるとされ、五歳の七五三を「袴着の儀」と呼びます。

そして、女児が七歳になると、子供用の帯から大人用の帯を着用するとされ、七歳の七五三を「帯解きの儀」と呼びます。

平成27年 七五三

	数え歳	満年齢
7歳	平成	平成
	21年	20年
	生まれ	生まれ
5歳	平成	平成
	23年	22年
	生まれ	生まれ
3歳	平成	平成
	25年	24年
	生まれ	生まれ

近年では数え歳及び満年齢の男女共に三歳・五歳・七歳の各歳にご参拝になり、健やかな成長を願う、ご祈禱を受けられる方が多くなりました。

因みに、右の表は数え歳・満年齢両方を載せてございますので、ご参考にして下さい。



崇敬会大祭

十一月三日

一年に一度、崇敬会会員の為の大祭です。皆様の無病息災や家内安全、子孫繁栄を祈願いたします。当日は県内外から会員の方が多数お見えになり、ご参列の会員のお名前がご神前にて報告されます。



新嘗祭

十一月二十三日

秋の稔りに感謝申し上げ、当社の神饌田で収穫される初穂がご神前にお供えされます。初物を神様に食して頂き、皇室の御安泰国家の安寧を祈願いたします。

尚、この初穂はご祈禱のお下がりとして授与しております。

末廣稻荷神社 参道幟のご案内

末廣稻荷神社参道の幟は毎年お正月と八月の稻荷神社例祭にあわせて新調いたします。ご奉納頂きました幟は、約半年間に亘り掲揚されます。

八月取替予定の幟の申込には若干余裕がございますので(記事作成時)、奉納ご希望の方は社務所までお申込下さい。



編集後記
古事記上巻の終了に伴い、紙面構成を変更しております。今後の掲載企画は目下検討中でございます。ご希望などございましたら、お気軽にお寄せ下さい。

岐阜県大垣市荒尾町二二八三の一
御首神社社務所
Eメール syamsuyo@mikubi.or.jp
TEL(〇五八四九一 三三〇〇)